

# 汚水処理持続向上に栄誉

藤原教授 「誰一人取り残さない」

高知大ら

高知大学の藤原拓教授を含む産官連携チーム

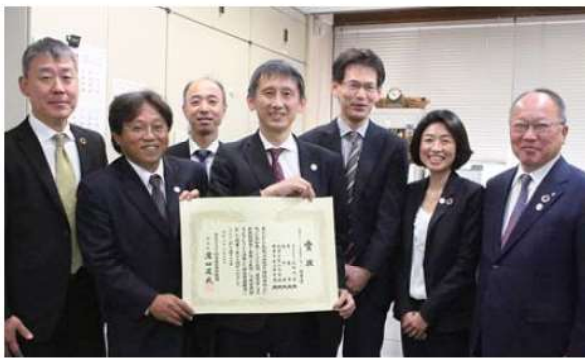
(高知大学、香南市、高知県、前澤工業、JSDI 本下水道事業団) による「汚水処理の持続性向上に向けた高知家の挑戦」産官学による新技術開発と全国への展開」が、国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) が主催する「STI for SDGs」アワードの優秀賞を受賞した。15日に日本科学未来館で表彰式が行われ、高知大学の櫻井克年学長と香南市上下水道課の宮田憲一課

長が代表して賞状を受け取った。

櫻井学長は「本学が目指す『スーパー・リージョナル・ユニバーシティ』は、地域でできることを日本中・世界中に広げることが理念。このような賞をいただけて、励みになる」と喜びを表した。表彰式はJST主催のイベント「サイエンスアワード2019」内で開催され、16、17日には受賞事例がブースに展示されるとともに、受賞団体による取組み内容の紹介も行われた。



産官学一丸となって取り組んだ



喜びを分かち合う関係者

この取組みは、汚水処理人口普及率が全国ワースト3位で人口減少や厳しい財政状況に直面する

しい財政状況に直面するなど、地域の都市基盤としての汚水処理施設の普

及と持続性向上が課題となっている高知県でその向上を目指すもの。同技術は香南市野市浄化センターで電力、処理時間・コストを削減できることがすでに実証済み。持続可能な開発目標 (SDGs) の17の目標のうち、ゴール6「安全な水とトイレを世界中に」のほか、ゴール7「エネルギーを

みんなにそしてクリーンに」、ゴール11「住み続けられるまちづくりを」、ゴール13「気候変動に具体的な対策を」の達成に貢献し得る技術として、これまで香南市で2カ所に導入されたほか、糸魚川市や北秋田市、笠間市など全国各地への水平展開が進んでいる。

JSTは受賞の理由について、「新技術の成果が実証されており、各地へ展開していることから科学技術イノベーションの活用、展開性の項目において評価された。地道な研究により確立された基盤技術を、産官学の共創により実用化につなげ、汚水処理能力の向上、持続可能なまちづくりを実現した好事例」とした。

また一行は表彰式後に国土交通省下水道部を訪問し、植松龍二部長らに受賞を報告した。植松部長は「SDGsの四つのゴール達成に貢献する素晴らしい取組み。アジア汚水管理パートナーシップ (AWAP) でもぜひPRを」と受賞を祝した。

受賞を受けて藤原教授は「高知家として産官学一丸となって取り組んできたこのチームで受賞できたことが嬉しい。人口減少が進む地方都市において誰一人取り残すことなく汚水処理施設を普及させ、その持続性を向上させるという社会課題の解決を目指してきた。下水道がSDGsの達成に貢献すると広く社会で認識されるきっかけになれば」とコメントした。